OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	巻頭言
Author(s)	鳥越, 慎太郎
Citation	ブラジル研究. 2026, 20, p. 1-2
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/106116
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

巻頭言

鳥越　慎太郎

本号で『ブラジル研究』は第 20 号を迎えました。今号は 2025 年 3 月末にご退職された平田惠津子教授の御退職記念号として刊行いたします。ブラジル研究会の教員のほか、平田先生にお世話になったポルトガル語専攻の卒業生や関係者から寄稿された論考も加わっております。

平田教授のご略歴、研究業績などに関しては別途、ご略歴・研究業績一覧を付しますのでそちらをご覧いただきたいですが、この場でも簡潔にご紹介いたします。

平田教授は 1997 年 4 月に大阪外国語大学外国語学部講師として着任され、1999 年 1 月に同助教授に昇任、2007 年 10 月には大阪大学と大阪外国語大学の統合に伴い、大阪大学世界言語研究センター准教授、2012 年 4 月には組織の改編により大阪大学言語文化研究科准教授へと就任され、2013 年 4 月に同教授に昇任されました。2022 年 4 月には再び組織改編により大阪大学人文学研究科教授に就任されました。

平田教授の専門はブラジル文学で、文学史的観点から文学作品におけるブラジルの文化的・民族的アイデンティティの表象に関する研究を行われてきました。非白人、非キリスト教徒、女性といったブラジルの社会的マイノリティに着目し、ブラジル文学の正典（キャノン）として権威づけられてきた作品のなかで

彼らがどのように描かれてきたか分析と考察を行われてきました。一方で、マイノリティの作家たちがどのように「自分たち」を表現してきたかも長年の研究テーマとなっており、とりわけ、ブラジルにおいて表現する側としてもされる側としてもほぼ不可視の存在となってきた日系ブラジル人作家の文学・映像作品を発掘し、分析を加えられてきました。

教育面では、大阪外国語大学に着任して以来28年の長きにわたり、学部と大学院で教鞭をとり、授業や個別指導などをとおして、確かな語学力と柔軟な思考力や表現力をもつ学生の育成に努められました。

学外における学会活動としては、日本ポルトガル・ブラジル学会で理事を13年務められ、同学会の運営に参加し、日本のポルトガル語圏言語・文化・社会研究の発展に尽力されてきました。

ポルトガル語専攻において平田先生は精神的支柱であり、専攻や教員個人が様々な困難や問題に直面した際には的確な指示や助言をもって解決へと導いてくださいました。一方で常に謙虚な姿勢で後輩の研究者を尊重してくださいました。また、2022年12月にはブラジル独立200周年の大きな一般公開イベントを成功させ、その企画力は他の教員に強い影響を与え、後続の大きな一般公開イベントの実施につながりました。2025年3月の最終講義でも、様々な世代の教え子が集まり、和やかな雰囲気であっという間に時間が過ぎました。

平田先生のこれまでのご尽力に感謝し、今後ともポルトガル語専攻へのご指導、ご鞭撻をお願いいたしますとともに、ご健康とご活躍を祈念いたします。